

「必要な事って何？」 ルカによる福音書 10:38-42

「必要なことは一つだけである。」と42節でイエス様がおっしゃった「ただ一つの必要なこと」とは一体何でしょう？

時々メッセージで語られるのは、マリアはイエス様の足元に座って、イエス様の言葉に聞き入っていた、それが必要なことであるというものです。確かにみことばに聞くことはとても大切です。聖書もその大切さを何度も語っています。しかし、もしみことばに聞くことが、ただ一つの必要なものであるなら、イエス様はマルタに、給仕をやめてあなたも座りなさいとおっしゃったでしょう。しかし、そうはおっしゃいませんでした。聖書全体から見ても、必要なただ一つのことが、みことばに聞くことを指しているようには思えません。

マルタとマリアは姉妹ですが、性格はどうやら正反対のようです。今日の箇所でも、村に来られたイエス様一行を迎えに出て、家にお招きしたのはマルタでした。兄弟ラザロが死んだ時に、イエス様が村の入り口まで来られたと聞いてすぐに迎えに行ったのはマルタで、マリアは家に留まっていたとあります。(ヨハネ 11章) また、イエス様の十字架の直前に、食事に招かれた席で、イエス様の頭にナルドの香油を注いだのはマリアで、マルタは給仕していたと記されています。(ヨハネ 12章、マルコ 14章) このように、マルタは行動的で、マリアは静かな人だったのでしょ。

マルタはなぜ、イエス様を迎えに出、家では給仕していたのでしょうか。それは彼女がイエス様を愛しているから、イエス様のために何かをしたいと願ったからです。ではなぜ、マリアはイエス様の足元に座ってお話を聞いていたのでしょうか。それは彼女がイエス様を愛しているから、イエス様の言葉を聞き逃すまいと願ったからです。

2人ともイエス様を愛する思いは同じだったのです。しかし2人の性格の違いのゆえに、現れた行動も違ったのです。ですからイエス様は、イエス様にマリアの文句を言ったマルタに、マリアの愛の行動を取り上げてはいけなとおっしゃったのです。

実は、ルカ 10章には、良きサマリヤ人と呼ばれる例えが記されています。律法の専門家が永遠のいのちを得るために必要なものをイエス様に聞いた時、イエス様は彼に律法にはなんと書いてあるかと聞き返され、「神を愛する、隣人を愛する」という彼の答えを受けてこの例えを話されました。そして最後に、神を愛し隣人を愛することを行動に表しなさいとおっしゃいました。そのすぐ後にマルタとマリアの話が出てくるのです。つまり、イエス

様は彼女たちが単にどんな行動を取ったかというわべだけのことでなく、なくてはならないイエス様を愛するということから出ている行為として、マルタとマリアを見ておられるということです。だとしたら、イエス様のおっしゃった「どうしても必要な一つのこと」とは、イエス様を愛し、その愛によって主に仕えるということではないでしょうか。

マルタにとっての問題は、イエス様のために忙しく給仕したことではありません。イエス様の話を足元で聞けなかったことでもありません。自分と違う愛の現れをする人(マリア)を理解しようとしなかったことです。マルタはきっと、イエス様をお迎えして、もてなしの準備を始めた時は、喜びに満ちていたはずで。ところが、忙しさのあまり、自分の手伝いをしないマリアの姿を見た時、腹が立ち、マルタの心から喜びがなくなってしまったはずで。不平不満が生まれ、それをイエス様にぶつけてしまったのです。もし彼女が、マリアの姿を見ても喜んで給仕を続けていたら、その行為はマルタから取り上げてはならない必要な一つだけのこととなっていたでしょう。

聖書に、偶像に捧げた肉を食べて良いか良くないかという議論についてのパウロの見解が記されています。「食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。また、食べない人も、主のために食べない。そして、神に感謝しているのです。」(ローマ 14:6) そうなのです。食べるか食べないかではなく、それぞれに神に感謝し、神のためにしている行為をお互いが裁き合うことが問題であって、そのことが教会を分裂させると警告しているのです。

イエス様はマルタに優しく声をかけられました。イエス様は、マルタが愛のゆえに一生懸命立ち働いていることをご存知でした。だからこそ、彼女の中の喜びが消え、妹に対する不満と怒りに満ちてしまっていることを注意されたのです。

現代のクリスチャンたちも、こういう問題に直面することがあるでしょう。飲酒に関して、タバコに関して、等々、さまざまに意見はあるでしょうが、それらも、裁き合うことになるとしたら、今日のマルタと同じことではないでしょうか。違いがあることが問題ではなく、その違いを理解しようとしないうところに問題があるのです。

本当に大切なことは、神を愛する愛であり、他の人々の、それぞれの主への愛の現れを認め合うことです。私たちは喜びの教会を目指しています。互いの違いを認め、それぞれがイエス様への愛を現す者とされましよう。そのような人の集まる教会は喜びに満ちた教会となるはずで。